

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:平成 31年 3月 18日

公表:平成 31年 3月 27日

事業所名 幼児グループにじこ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		室内は遊びのエリアを分けたり、感覚統合遊具を組み合わせたサーキットコースにより体を使う遊びの設定をしている。また、晴気の良い季節にはテラスや庭等を利用し遊びを過ごすよう配慮している	今後も分かりやすいエリア等を行い、テラスや庭、近隣の公園を有効に活用していきたい
	2 職員の配置数は適切である	○		マンツーマン対応のお子さんにも対応できるよう、基準を超える十分な職員を配置している	引き続き体制を整えていく
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		プレールーム・テラスには、段差がなく利用しやすいが、トイレが狭いと感じるが質実物件であり、改修は難しい	施設内の整理整頓を心がけ、環境を整えながら、スペースを有効に使用していく
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日消毒清掃を行っている。余計な物を置かず、分かりやすい空間となっている。	今後も日々の消毒清掃を行っていきと共に、年2回の害虫駆除を行っていく
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		個別支援計画に沿った毎日の振り返りを行っている	さらにテーマを設けて、技術の質を上げるような取り組みをしていきたい
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価を実施している他、面談や日々のやり取りの中で意向を把握している	把握した意向について迅速に検討、改善につなげていく
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		評価表を配布回収を行っているが、昨年度公表を行わなかったため、今後は行っていきたい	近々公表し、今後も年1回の公表をしていく
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者評価は、児童デイサービスの時に一度行っているが、それ以来行っていないが、毎年度部門と当事業所の目標を定め、その目標に沿った業務を行い、半期毎に振り返りを行いながら業務改善につなげている	今後、検討していく
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人内研修を年4回実施している他、資格取得と技術力向上のための外部研修の推進、実施をしている	内部研修については、皆が同じ機会を得ているが、外部研修についても偏りなく受講できるように計画していきたい
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		他事業所の個別支援計画や幼稚園等での様子、家庭での様子等を把握した上で、支援計画を立てている	今後も丁寧な面談を心がけていく
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		利用初回時に、標準化されたアセスメントツールを使用している他、日々の記録についても、項目毎の様式を使用している	今後も適宜使用していく
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		支援計画は、家庭や他支援機関での様子などを把握したうえで、提供すべき支援内容を分かりやすく項目に分け、達成すべき優先順位をつけている	ガイドラインの掲示を行い内容の周知を行っていく
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画の目標を毎日の記録の様式に記載しており、常に確認ができるようにしている	朝のミーティング内容に、支援目標の確認入れていく
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		ミーティングで確認をしている	立案から広く職員の意見を吸い上げるようにしていく
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎年度発達段階を踏まえ計画を立てている他、季節の作品等は毎年度同じものにならないようにしている	振り返り時にプログラム内容への意見交換もを行い、広く職員の意見を吸い上げるようにしていく。また、他事業所を見学し参考にしていく
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	○		集団活動の中で養われるコミュニケーションやあつまりの様子、個別活動の中での丁寧な支援が必要な身辺自立や運動面等、発達段階に応じた優先順位をつけながら、組み合わせで作成している	専門家の意見や他機関の計画内容も参考にしながら、内容の充実を図りたい
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		口頭での打ち合わせに加え、細かい内容はホワイトボードにて予め示している。他支援に入る前には必ずヒヤリハットや伝達事項を紙にて確認している。また、役割は固定化しないようにしている	朝のミーティング内容に、支援目標の確認入れていく
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援に入った職員全員が発言の機会をもつことで、その日の利用者全員の様子を共有するようになっている	時には他事業所や他部門の意見ももらえるような機会をつくり、職員の気づきを喚起していく
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		全職員での振り返りの後で記録をすることで、客観的な記録をとることができている。また、自分が書いた記録だけでなく他の職員が書いたものも確認できるようにしている。日々の記録様式には個別の支援目標が入っており、個別支援計画の見直しの際は、この記録を元に記憶ではなく客観的事実に基づいて計画の見直しを行っている。	分かりやすくポイントを抑えた記述のスキルアップを図る
20 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		最低6ヶ月に一度は行い、必要に応じて見直しをしている	引き続き必要に応じ見直しをしていく	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		主に保護者を通じて、他機関での情報を得ている。相談事業所の訪問があった際には、児童発達支援管理責任者が対応している	必要に応じ積極的に参画していく、また、そのことを保護者に周知していく
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じ行っている	普段から情報交換をし、顔の見える関係を築いていく
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			対象者なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			対象者なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者を介しての共有が主だが、必要に応じ幼稚園等への訪問を行っている	保育園や幼稚園等の見学を積極的に行い、普段から顔の見える関係を築いていく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者からの要請に応じ、就学支援シートの記入を行っている。入学前に支援学校教諭との面談を予定している	学校会等に積極的に参加し、普段から顔の見える関係を築いていく
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		年に2回のOTや心理専門職員の技術支援を受け、指導内容をもとに支援方法の検証改善につなげている	引き続き連携をしながら、職員全体のスキルアップを図りたい
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	○	多くの子どもが地域の幼稚園や保育園を利用しており、そこにおいての交流がある	必要に応じ検討していく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		協議会本会の委員になっており、地域の障害児通所支援事業所の代表として参加している。また、子どもワーキンググループのメンバーとしても参加し、情報の共有と意見交換を積極的に行っている	引き続き積極的に参加し、現場からの声を届けていきたい
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々の連絡帳でのやり取りの他、送迎時に家や他機関での様子、当事業所での当日の様子などを伝え合っている	発達支援のスキルアップを図っていく
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○		音楽療法を通しての子ども理解の勉強会や、父親勉強会、就園前・就学前勉強会、障害理解の研修会を行っている	職員自身が保護者支援のスキルを身につけるよう、また、地域の情報や制度について精通するよう研鑽を積んでいく
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に行っている	今後も丁寧にいく
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ガイドラインの内容については、契約書に盛り込み、契約時に読み上げながら丁寧に説明を行っている。支援内容も保護者の意向を十分に理解した上で作成し、同意を得ている	今後も丁寧にいく
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		6ヶ月に一度の個別面談の他、随時相談に応じ、傾聴の姿勢で丁寧に対応している	今後も丁寧にいく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		父母の会や、バザーの手作りの会、茶話会などに場所の提供をしている。年度初めには顔合わせを兼ねて保護者会を開催している	保護者の意見を取り入れながら、適宜開催していく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		イレギュラーの参加など、保護者の状況に応じできるだけ対応をしている	今後もできる限り対応していく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月1回のおたよりや、年4回の季刊誌の他、随時お知らせの配布や掲示板により情報提供を行っている	今後も適宜行っていく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		保護者には、内容により細かく同意書を得ている他、職員や実習生にも個人情報に関する宣誓書を取り交わしている	今後も徹底していく
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		障害の特性や発達段階に応じ、実物を示したり、サインと言葉を組み合わせる等を行っている。保護者にも口頭では分かりやすく丁寧な説明を、また、連絡表や連絡帳、メール等において漏れがないよう心がけている。	職員の支援のスキルアップを図っていく
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		バザーのお知らせを送ったり、通りに面した掲示板に活動の様子を掲示する等している	今後も心がけていく

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	事業所内の緊急時対応マニュアルを策定している他、緊急時対応カードを保護者に配布回収し、連絡先や発作時の対応についての確認をしている。また、感染症対策としては、職員に予防接種費用の補助をいっている。他嘔吐処理の研修や、救急救命研修、避難訓練も行っている	マニュアルの点検見直しをしていく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	避難訓練を行っている	避難訓練を定期的に行う
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	台帳や緊急対応カードにて把握をしている	新学期毎に書類の更新を行うと共に、状況の変化があった場合に申し出るよう保護者に周知する
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	保護者の指示に従っている。また、アレルギー一覧を作り、確認ができるようにしている。	医師からの指示についての確認を行う
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	毎日の振り返り時にヒヤリハットがなかったかの確認を最初に行い、対応方法についても全職員で検討している。また、当日居なかった職員も勤務前には必ず前日までのヒヤリハットの記録を確認してから支援に入るようにしている。	今後も引き続き徹底した確認情報の共有をはかる
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	年に1回法人内研修で虐待防止研修を設定している他、チェックシートの活用を行っている	漏れなく引き続き行っていく
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	今のところ、身体拘束を行う対象者はいないが、必要に応じ組織的に決定していく	幼児の身体拘束の事例などについて、情報収集し法人内で検討していく

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。